

MEIKAI-JOEプラス 2023 第12回講座

担当：岐阜市教育委員会

テーマ：学習評価

講師：金子義隆（明海大学）

第12回講座 講師講評の流れ:

1. 見習いたいポイント 1 : ゴール中心の単元計画
2. 見習いたいポイント 2 : Visual aidsの活用
3. 見習いたいポイント 3 : 中間指導の活用
4. 見習いたいポイント 4 : 児童と協働で作る授業
5. より良い授業のための提案 1 : 評価規準は領域ごとに作成
6. より良い授業のための提案 2 : 記録に残す評価を中心に記載

見習いたいポイント1： ゴール中心の単元計画

- 単元末のゴールが明確である。
- 単元末ゴールに向かって第1時間目から第9時間目まで有機的に関連している。

バックワード・デザイン

7 単元構想図

第6学年 Unit3 『Let's go to Italy!』 (全9時間)	【単元のねらい】 ・自分のことを伝えたり、相手のことをよく知るために、行ってみたいおすすめの国や地域と、その理由について、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったり、書いたりすることができる。
--	--

本単元の評価規準

【知識及び技能】 【知識】[~ is ..., You can ~, It's ~ およびその関連語句など]について理解している。 【技能】行ってみたいおすすめ国や地域とその理由について、[~ is ..., You can ~, It's ~ およびその関連語句など]を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。	【思考力、判断力、表現力等】 ・行ってみたいおすすめ国や地域とその理由について、[~ is ..., You can ~, It's ~ およびその関連語句など]を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。 ・自分のことを伝えたりするために、行ってみたいおすすめ国や地域とその理由について、例文を参考に書いている。	【学びに向かう力、人間性等】 ・行ってみたいおすすめ国や地域とその理由について、自分のことを伝えたり、相手の話している概要を捉えようとしていたりしている。 ・自分のことを伝えたりするために、行ってみたいおすすめ国や地域とその理由について、例文を参考に書こうとしている。
--	---	--

見方・考え方を働かせている姿

Unit3 を書く課題 行ってみたい国や地域と、その理由を伝え合おう。

第9時 記録に残す評価：話すこと[やり取り]・書くこと【知識・技能】【思考・判断・表現】
(パフォーマンステスト)
自分の好きな国や地域を、ロイロノートの中から選び、おすすめしよう。

第8時 自分が行ってみたい国を選び、その国の魅力を伝えることができる。
【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】
自分が行ってみたい国や地域についてのプレゼンを作り、仲間伝えよう。

第7時 自分が調べた国を伝えたり、相手が調べた国をよく知ったりする活動を通して、自分が伝えたい国について、十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。
【思考・判断・表現】
自分が調べた国の魅力や、その理由を伝え合おう。
○写真やBRTとの対話を視聴したり、方略を使って対話したりする。
<日蘭対話(例)>
S1: What do you want to eat?
Oh good. Why?
Yes, I do.
I like Teriyaki.
S2: I want to eat pizza.
Because it's delicious. I like pizza. Do you like pizza?
Which pizza do you like, Teriyaki or Margherita?
Oh, me too. How about you?(What do you want to eat?)

○自分の調べた国を伝えたり、相手が調べた国の紹介を聞いたりする。
<日蘭対話(例)>
S1: Hello!
Do you know this country?
OK. Italy is a nice country.
You can see the Colosseum. Do you know this building?
You can eat pizza. Do you like pizza?
I recommend Margherita.
It's delicious. Thank you for listening.
S2: Hello!
No, I don't.
Yes, I do.
Oh, good!
I like pizza.
Thank you.

○ロイロノートで送られたワークシートに本時の活動で使用した言語材料を使って、自分の調べた国について書く。

単元の学習の目的を理解し、表現を習得する段階

第6時 ロイロノートを使って、自分の担当する国を伝えるプレゼンを作ることができる。
【主体的に学習に取り組む態度】【思考・判断・表現】
自分の担当する国の魅力が、相手に伝わりやすいプレゼンを作り、伝える練習をしよう。
○様々な目標や状態に応じて、学習の仕方を選択させ、プレゼンの完成と伝えるための練習に向かわせる。
○Let's Read and Writeの「わたしのせりふ」を参考に作るよう促す。
○プレゼンで使用する画像の配置やキーワードの使い方を考えることで、より相手に伝わりやすくなることを共有する。
○どのような順番で伝えたり、数ある魅力のうち、何を伝えたりすればより相手に興味を引いてもらえるかを考えながら練習する。

第5時 例を参考に、自分が担当する国、見ることや食べることのできる有名なものを調べたり、4冊以上に書き出したりできる。
【知識・技能】【思考・判断・表現】
自分が担当する国の魅力について書き出そう。
○国をおすすめする際に伝えそうな動作を表す語句を学習する。
○国の有名な食べ物の味を表現する際に伝えそうな語句を学習する。

第4時 行ってみたい国を伝えるための基本的な表現や語句を知ったり、使ったずね合った国や地域への旅行をすすめる表現や語句を知り、使ってみよう。
【知識・技能】【思考・判断・表現】
○国をおすすめする際に伝えそうな動作を表す語句を学習する。
○国の有名な食べ物の味を表現する際に伝えそうな語句を学習する。
○教科書を参考に、自分の担当する国についての興味を引き出す。

第3時 世界遺産などについて考え、世界と日本の文化に対する理解を深めようとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】
世界の国々の世界遺産をもっと知り、色々な国に興味をもとう。
○様々な国の世界遺産を知り、行ってみたい世界遺産を伝え合う。
○英語の「語の役割」に注目しながら、「世界のすてき」を視聴する。

第1・2時 世界の有名な建物や食べ物についてのやり取りのおおよその内容を理解することができる。
【知識・技能】【主体的に学習に取り組む態度】
<単元を書く課題>行ってみたい国や地域と、その理由を伝え合おう。
世界の有名な建物や食べ物についてのやり取りの内容を理解しよう。
○世界にはどんな国があるのか調べる。
○みんなが知りたっている国とご自分の国をアンケート調査し、担当する国を決める。

見方・考え方を働かせている姿

- ALTは何が好きなのかな。聞いてみて、一番魅力的なものを選んで伝えようかな。
- 今までのことを使って、今度は本音に行きたい国について、プレゼンを作ったり、伝えたりできそうだな。
- なんて言ったらいいかわからなかったけど、聞いたらわかったぞ、次で使ってみよう。
- 会話の途中で相手の反応を伺ったり、質問したりしながら進めると、自分が調べた国の内容がより詳しく伝えられるな。
- 同じ国を調べた子は、こんな魅力を伝えているんだ。
- 〇〇さんは、こんな風に伝えているな。自分も真似してみよう。
- 自分のこんなところが、よかったんだ。次も頑張るぞ。
- 話したことを書くとか、こうやって書けるんだな。
- この写真を使ったり、この順番で伝えたりした方が、きっとみんなにも伝わるだろうな。
- わかりやすくキーワードは書いておこうかな。
- 自分が担当する国では、こんなことができるんだな。
- これを伝えたら、きっとみんなはびっくりするだろうな。
- 自分もこの国について知らないことがいっぱいあったな。
- can - の - に入る言葉を変えると、色々な魅力が伝えられそうだな。
- 食べ物も魅力の一つだな。
- 世界遺産も、その国を表す魅力の一つだな。
- 言葉にはいろいろな役割があるんだな。
- 世界にはたくさんの国があるんだな。
- 自分が担当する国は、どんな魅力があるのかな。みんなは何が知りたいのかな。
- 本当に行ってみたい国について、調べたり伝えたりしたいな。

見習いたいポイント2：Visual Aidsの活用

- 黒板を中心に単語や表現、写真が適切に提示されている。
- 児童がコミュニケーション活動中にすぐに頼りにできる。
- 必要なインプットに効果的に何度も出会える。



見習いたいポイント3：中間指導の活用

- 1回目の言語活動後に一度引き取って、児童が言えなかったことをクラス全体で共有して、クラス全体の学びとする。
- この中間指導は、「足場かけ」の場面となり、子どもが1人ではできない領域にある課題であっても、他者の助けがあれば到達可能となる（社会文化理論のZPD）。
- 1回目はAペア、2回目はBペアなどとペアを替えて、再度言語活動を行う。



見習いたいポイント4：児童と協働で作る授業

- 今日のAimを書く場合も、ある児童の「**圧倒的に**」や”**Is that so?**”という言葉を使って作成した。
- “Is that so?”の目標回数も児童と一緒に決めた。
- 教師が一方向的に作成して提示するのではなく、児童の言葉を引き出しながら、協働で作成している。
- Teacher-centered ⇒ Student-centered teaching



第12回講座 講師講評の流れ:

1. 見習いたいポイント 1 : ゴール中心の単元計画
2. 見習いたいポイント 2 : Visual aidsの活用
3. 見習いたいポイント 3 : 中間指導の活用
4. 見習いたいポイント 4 : 児童と協働で作る授業
5. より良い授業のための提案 1 : 評価規準は領域ごとに作成
6. より良い授業のための提案 2 : 記録に残す評価を中心に記載

より良い授業のための提案1：評価規準は領域ごとに作成

7 単元構想図

第6学年 Unit3

『Let's go to Italy』

(全9時間)

【単元のねらい】

- ・自分のことを伝えたり，相手のことをよく知るために，行ってみたいおすすめの色や地域と，その理由について，短い話を聞いてその概要が分かったり，伝え合ったり，書いたりすることができる。

本単元の評価規準

【知識及び技能】

【知識】[~ is ..., You can ~., It's ~.およびその関連語句など]について理解している。

【技能】行ってみたいおすすめの色や地域とその理由について，[~ is ..., You can ~., It's ~.およびその関連語句など]を用いて，お互いの考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。

【思考力，判断力，表現力等】

- ・行ってみたいおすすめの色や地域とその理由について，[~ is ..., You can ~., It's ~.およびその関連語句など]を用いて，お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。
- ・自分のことを伝えたりするために，行ってみたいおすすめの色や地域とその理由について，例文を参考に書いている。

【学びに向かう力，人間性等】

- ・行ってみたいおすすめの色や地域とその理由について，自分のことを伝えたり，相手の話している概要を捉えようとしていたりしている。
- ・自分のことを伝えたりするために，行ってみたいおすすめの色や地域とその理由について，例文を参考に書こうとしている。

単元の評価規準作成のポイント

- 「単元の目標」を踏まえて「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。
- 「内容のまとめりとは、五つの領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」）である。
- 「五つの領域ごと」に3観点で記述する。
(国立教育政策研究所, p.38)

より良い授業のための提案1：評価規準は領域ごとに作成

1 単元の目標

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて伝え合ったりできる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。

※なお、本単元における「書くこと」については目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p><知識> 月日の言い方や、I like/want ～、Do you like/want ～? What do you like/want? When is your birthday?, その答え方について理解している。</p> <p><技能> 誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。</p>	<p>誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取っている。</p>	<p>誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ろうとしている。</p>
話すこと「やり取り」	<p><知識> 月日の言い方や、I like/want ～、Do you like/want ～? What do you like/want? When is your birthday?, その答え方について理解している。</p> <p><技能> 誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、I like/want ～、Do you like/want ～? What do you like/want ～? When is your birthday?等を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p>

より良い授業のための提案2： 記録に残す評価を中心に記載

1. 右の計画では、評価の観点が見時間記載されているが、毎時間記録に残す評価を行っているのか？
 2. 第9時のパフォーマンステストとはどのような内容？また、どの領域を評価するのか、話すこと「やり取り」と書くこととの2領域両方が対象？
- ✓ 単元計画には、記録に残す評価の場面を、いつ、どのように、どの観点を評価するのかを明確にして記す。

場面や状況に応じて、表現を活用する段階

第9時 記録に残す評価：話すこと「やり取り」・書くこと **【知識・技能】** **【思考・判断・表現】**
(パフォーマンステスト)
ALTの好みに合わせた海外旅行先を、ラインナップの中から選び、おすすめしよう。

第8時 自分が行ってみたい国や地域についてプレゼンを作り、仲間伝えよう。 **【知識・技能】** **【思考・判断・表現】** **【主体的に学習に取り組む態度】**
自分が調べた国の魅力や、その理由を伝え合おう。 **【思考・判断・表現】**

第7時 自分が調べた国を伝えたり、相手が調べた国をよく知ったりする活動を通して、自分が伝えたい国について、十分に慣れ親しんだ簡単な単語や基本的な表現を用いて書くことができる。 **【思考・判断・表現】**
自分が調べた国の魅力や、その理由を伝え合おう。
○写真やHRTとの対話を視聴したり、方略を使って対話したりする。

＜目指す対話（例）＞	
S1: What do you want to eat? Oh good. Why? Yes, I do. I like Teriyaki.	S2: I want to eat pizza. Because it's delicious. I like pizza. Do you like pizza? Which pizza do you like, Teriyaki or Margherita? Oh, me too. How about you?(What do you want to eat?)

○自分の調べた国を伝えたり、相手が調べた国の紹介を聞いたりする。

＜目指す対話（例）＞	
S1: Hello! Do you know this country? OK. Italy is a nice country. You can see the Colosseum. Do you know this building? You can eat pizza. Do you like pizza? I recommend Margherita. It's delicious. Thank you for listening.	S2: Hello! No, I don't. Yes, I do. Yes, I do. I like pizza. Oh, good! Thank you.

○ロイロノートで送られたワークシートに本時の活動で使用した言語材料を使って、自分の調べた国について書く。

単元の学習の目的を理解し、表現を習得する段階

第6時 ロイロノートを使って、自分の担当する国の魅力や、その理由を伝え合おう。 **【知識・技能】** **【思考・判断・表現】** **【主体的に学習に取り組む態度】**
自分の担当する国の魅力が、相手に伝わるようなプレゼンを作り、伝えよう。 **【主体的に学習に取り組む態度】** **【思考・判断・表現】**
○個々の目標や状態に応じて、学習の仕方を選択させ、プレゼンの完成と伝えるための練習に向かわせる。
○Let's Read and Writeの「わたしのせりふ」を参考に作るよう促す。
○プレゼンで使用する画像の配置やキーワードの使い方を考えることで、より相手に伝わりやすくなることを共有する。
○どのような順番で伝えたり、数ある魅力のうち、何を伝えたりすればより相手に興味を引いてもらえるかを考えながら練習する。

第5時 例を参考に、自分が担当する国の、見ることや、食べること、する有名なものを調べたり、4線に書き出したりできる。 **【知識・技能】** **【思考・判断・表現】**
自分が担当する国の魅力を調べて、書いてみよう。
○国をおすすめする際に使えそうな動作を表す語句を学習する。
○国の有名な食べ物の味を表現する際に使えそうな語句を学習する。

第4時 行ってみたい国を伝えるための基本的な表現や語句を知り、使って伝え合おう。 **【知識・技能】** **【思考・判断・表現】**
国や地域への旅行をすすめる表現や語句を知り、使って伝えよう。
○国をおすすめする際に使えそうな動作を表す語句を学習する。
○国の有名な食べ物の味を表現する際に使えそうな語句を学習する。
○教科書を参考に、自分の担当する国についての興味を引き出す。

第3時 世界遺産などについて考え、世界と日本の文化に対する理解を深めようとしていく。 **【主体的に学習に取り組む態度】**
世界の国々の世界遺産をもっと知り、色々な国に興味をもつ。
○様々な国の世界遺産を知り、行ってみたい世界遺産を伝え合う。
○英語の「語の役割」に注目しながら、「世界のすてき」を視聴する。

第1・2時 世界の有名な建物や食べ物についてのやり取りの場面を、いつ、どのように、どの観点を評価するのかを明確にして記す。 **【知識・技能】** **【主体的に学習に取り組む態度】**
＜単元を貫く課題＞行ってみたい国や地域と、その理由を伝え合おう。
世界の有名な建物や食べ物についてのやり取りの内容を理解しよう。
○世界にはどんな国があるのか調べる。
○みんなが知りたいがっている国はどこなのかをアンケート調査し、担当する国を決める。

2種類の評価

指導のための評価

- 日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすための評価。
- 「形成的評価」ともいう。

記録に残す評価

- 学期末に児童の学習の成果に対して一定の判断を下すための材料とする評価。
- 「総括的評価」ともいう。

より良い授業のための提案2： 記録に残す評価を中心に記載

- 指導のための評価は、単元の指導と評価計画には特に記載する必要はない。
- 児童の学習状況を見取りたい特別なポイントがある場合は、単元計画ではなく、本時の指導案の備考欄等（評価規準等）に記す。

3 「話すこと〔発表〕」に焦点をおいた単元の指導と評価の計画（8時間）

時	目標◆・活動○【】	評 価			
		知 技	思 判 表 現	態 度	
1	<p>◆動作を表す語や「できる」「できない」とい</p> <p>○Small Talk：先生のできること・できないこと 【Let's Watch and Think 1】 p.36 ・映像資料の映像なしに音声のみを聞いて、その人物が誰かを推測する。 【Let's Play 1】 p.34, 35 ・指導者の話を聞いて、誌面のどの動物かを推測して答える。 【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション： I can run. I can swim.) p.35 【Jingle】 Animals Jingle p.39 (p.77)</p>				<p>評価規準（評価方法）</p> <p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
2	<p>◆動作を表す語やあることができるかどうかにつ</p> <p>【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション： I can run. I can swim.) p.35 【Let's Listen 1】 p.36 ・音声を聞いてどの動物かを考えて、イラストの下に番号を記入する。 【Let's Play 2】 ポインティング・ゲーム p.37 ○Let's Talk ・15種類のイラストの中から、自分ができるところを選んでペアの相手に伝える。 【Jingle】 Animals Jingle p.39 (p.77) 【Let's Play 2】 ポインティング・ゲーム ○Sounds and Letters (5×5ビンゴ)</p>				<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
3	<p>◆あることができるかどうかを尋ねたり答えたりできる。また、アルファベットの文字を活字体で書くことができる。</p> <p>○Small Talk：好きなスポーツや趣味 【Let's Listen 2】 Who am I? p.36 ・音声を聞いて、イラストにある動物の内どの動物のことかを考える。 ○デスティニー・ゲーム 【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション： Can you swim?) p.35 【Activity 1】 p.37 ・指導者の質問に答えたり、指導者と一緒に代表児童に尋ねたりする。 ・ペアでできることできないことを予想して尋ね合う。 【Jingle】 Animals Jingle p.39 (p.77) ○Sounds and Letters</p>				<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
4	<p>◆あることができるかどうかについて聞いた</p> <p>【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション： Can you swim?) p.35 【Let's Watch and Think 2】 前半のみ p.38 ・映像を視聴して、誌面に○や△を書いたり、指導者の質問に答えたりする。</p>				<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>

より良い授業のための提案2： 記録に残す評価を中心に記載

- 記録に残すための評価では、以下の3点を明示する。
 - ① 評価方法
 - ② 評価する領域
 - ③ 評価の観点
- さらに評価規準を記すとより分かりやすい。

国立教育政策研究所, p.61

8	<p>◆自分や先生のことをよく知ってもらうために、できることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちを含めて話すことができる。また、アルファベットの文字を活字体で書くことができる。</p> <p>○Let's Read and Write ・音声について読む（発音する）。 ・例文を参考に、ワークシートに書く。 【STORY TIME】② p.41 ・デジタル教材を視聴して、音声について読む。</p> <p>○Sounds and Letters ・アルファベットの文字を見て、その音とその音で始まる動物を言う。 【Let's Chant】 Can you sing well? (オプション： He can run fast. She can sing well.) p.35</p> <p>【Activity 5】 p.40 ・インタビュー結果をもとに、先生ができることやできないことを、自分のことを含めて話す。</p>		発	発	<p>第7時と合わせて行う 「話すこと【発表】」の記録に残す評価</p> <p>◎自分や身近な先生のことをよく知ってもらうために、できることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。〈行動観察〉</p> <p>◎自分や身近な先生のことをよく知ってもらうために、できることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話そうとしている。〈行動観察〉</p> <p>・児童が自分や先生のことを紹介し合っている様子から、評価の記録を残す。第7時で (b) に至っていないと判断した児童を優先して観察し、改善が見られた場合は記録に修正を加える¹⁴</p>
---	---	--	---	---	---

A black and white photograph of a mountain range under a starry night sky. A bright meteor streaks across the sky from the left towards the center. The mountains are dark and rugged, with some snow or light-colored rock visible on the peaks. The sky is filled with numerous stars of varying brightness. The entire image is framed by a black border, and there are four circular fasteners (two in the top corners and two in the bottom corners) visible on the left and right sides.

Thank you for participating.
I hope you enjoy teaching English.